

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 宮島喜文
 編集責任者 深澤憲治
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <https://www.jamt.or.jp>

- P1 令和5年度定時総会 全議案が承認されました
 P2 監事就任のご挨拶/本年度ご入会された皆様へ書類提出のお願い
 P3~P6 令和5年度 日臨技学術奨励賞受賞コメント
 P6 臨地実習指導者講習会ワークショップ (Webによるグループワーク) の受付について
 P7~P8 各認定制度で「行列のできるスキルアップ研修会」を開催
 P9 都道府県技師会 各地での取り組み (滋賀県編)

令和5年度定時総会

全議案が承認されました

令和5年6月24日(土)に開催された令和5年度定時総会は、出席正会員41,445名(有効正会員数68,041名、定足数34,021名、出席率60.91%)で成立するとともに、各号議案の説明と採決の結果、全議案に対して「承認する」が過半数を占め、すべての議案が承認されました。出席者の内訳は以下の通りです。なお、議決権行使の事前受領は、電磁的方法が90.4%(前年度88.3%)、書面が9.6%(前年度11.7%)となり、電磁的方法を利用された会員がはじめて9割以上となりました。また、出席率については、昨年度の定時総会の56.9%と比べて今年度の定時総会は5%上昇した61.9%となりました。

	有効電磁表決	有効書面表決	当日有効出席	当日有効委任	合計
出席者数	37,424	3,979	29	13	41,445
比率	90.30%	9.60%	0.07%	0.03%	100.0%

		承認する	承認しない
第1号議案	令和4年度事業報告の件	41,248	197
第2号議案	令和4年度決算の件	41,137	308
第3号議案	監事の選任の件	中森 泉	270
		高原 和之	284
第4号議案	倫理綱領の改定の件	41,230	215



会場の様子



議長席

次ページに、監事の就任挨拶をご紹介いたします。

監事就任のご挨拶

監事 中森 泉



昭和50年生
 平成20年 弁護士登録
 平成20年 神谷町青山法律事務所入所
 平成22年 内閣府
 「新公益法人制度の申請に係る相談員」
 (現「新公益法人制度に係る相談員」)(現任)
 平成24年 財団法人
 小林外来留学生奨学財団 理事
 平成25年 一般財団法人
 小林外来留学生奨学財団 評議員
 平成27年 一般社団法人
 日本臨床衛生検査技師会 監事(現任)
 令和2年 公益財団法人
 日中友好会館 監事(現任)
 令和5年 中森泉法律事務所 開設

監事 高原 和之



昭和45年生
 平成5年 農林漁業金融公庫入庫
 平成8年 青山監査法人入所
 平成12年 公認会計士登録
 平成13年 監査法人トーマツ入所
 平成18年 高原公認会計士事務所設立
 平成24年 税理士登録
 平成27年 一般社団法人
 日本臨床衛生検査技師会 監事就任

この度、社員総会において改めて監事に選任いただき、3期目を務めさせていただきこととなりました、弁護士の中森泉と申します。

監事の役割は、理事の職務の執行を監査することであり、これには業務監査と会計監査とが含まれます。業務監査においては、理事の職務の執行が法令及び定款を遵守して行われているかという観点から監査をすることになります。

日臨技は創立70周年、法人化60周年を迎えた歴史ある組織であり、その会員数は約70,000人となっています。法人の適正かつ健全な運営という観点から、監事の役割はますますその重要性を増しているものと認識しております。

これまでの職務経験を活かし、引き続き監事としての務めを精一杯果たすことで、日臨技の発展に微力ながらお役に立ちたいと思っております。

皆様どうぞよろしくお願いたします。

この度、監事に就任いたしました公認会計士・税理士の高原和之と申します。これまで8年間、監事をさせていただきました。その間の職務を通じ、日臨技について理解を深めることができました。このことは、監事の職務を行う上で、大変有用であると思います。一方で、監事は組織に慣れきってしまっはいけない立場だと思っています。本来、指摘し改善を促すべき事項であっても、それが当たり前のように思えてしまい見過ごしてしまう危険性があるためです。このようなことがないよう、これまでの経験を活かしつつも、適度な距離感と緊張感を保ちながら、絶えず新鮮な視点を持つことを忘れずにいたいと思います。

皆様から与えられた4年間、日臨技の安定的かつ持続的な発展に貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

本年度ご入会された皆様へ

■書類提出のお願い

・下記の書類をご提出いただいていない方はご提出をお願いいたします。

①「入会申込書」「口座振替依頼書」

翌年度会費の支払方法は口座振替となります。振替口座を登録するために必要なため、必ず本紙をご郵送ください。

②「登録済み証明書または臨床検査技師免許証の写し」

臨床検査技師免許番号を「申請中」に入会された方はご提出が必要です。メール添付・FAX・郵送いずれかの方法でご提出をお願いいたします。

(事務局)

令和5年度 日臨技学術奨励賞受賞コメント

令和5年度日臨技学術奨励賞の受賞者が発表され、第72回日本医学検査学会にて表彰式が行われました。受賞者の皆様よりいただいたコメントをご紹介します。

優秀論文賞

表彰の前年に発行された会誌「医学検査」に掲載された優れた論文（原著、研究）に対する表彰。また、この優秀論文賞のうち特に画期的な1編を「最優秀論文賞」として表彰する。

最優秀論文賞

『抗リン脂質抗体による

単球表面組織因子発現に対するCD14抗原の関与』

金重 里沙

山口大学大学院医学系研究科

この度は、日臨技学術奨励賞「最優秀論文賞」の栄誉に浴し、身に余る光栄に存じます。宮島会長、日臨技理事、選考委員の皆様並びに御推薦いただきました先生方に心より御礼申し上げます。

本論文は、抗リン脂質抗体による単球表面組織因子発現にCD14抗原が関与している可能性を示したものです。抗リン脂質抗体を認識する細胞表面レセプターを特定し、血栓形成のトリガーとなる組織因子発現やサイトカイン産生のシグナル伝達機構を解明することができれば、抗リン脂質抗体症候群の病態発症機序の解明につながるだけでなく、新たな治療戦略のエビデンスとなる可能性が期待できます。

残念ながら、出産予定日も近く、体調面に不安があったことから、現地での表彰式参加は見合わせましたが、この栄誉は、私ひとりの力ではなく、皆さんの御支援の賜物と思っています。

今回の受賞を励みに、引き続き真摯に研究に取り組んでいく所存でございます。

今後とも御指導、御鞭撻の程、何卒よろしくお願いたします。

優秀論文賞

『ABO血液型不適合生体肝移植における

フローサイトメトリー法を用いた

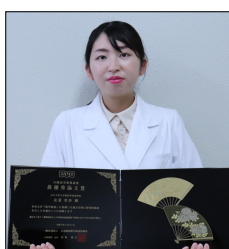
抗A/B-IgGサブクラスおよびC1q結合抗体測定について』

笹野 まゆ

東京女子医科大学病院

この度は、優秀論文賞に選出いただき、誠にありがとうございます。

本邦における生体肝移植は、近親者に限られるため臓器提供するドナーが臓器提供を受けるレシピエントと必ずしもABO血液型が一致するとは限りません。



ABO血液型不適合肝移植では、一度超急性拒絶を引き起こしてしまうと回避することはとても難しくなります。

本研究は、このような超急性拒絶を回避することを目的として抗A/B-IgGサブクラスとC1q検出法を開発しました。現時点では、また基礎研究ではありますが、症例を重ね医師の診断や患者への治療の一助になればと考えております。また、肝臓だけでなく、生体腎移植の分野でも応用できるよう研究を進めております。

今回の受賞を励みとし、今後も臓器移植検査の発展により一層邁進してまいります。

最後に、本研究の遂行にあたりご指導頂いた移植検査室の皆様へ感謝申し上げます。

優秀論文賞

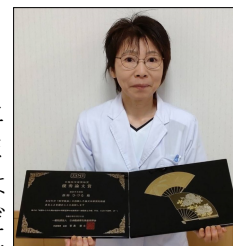
『病態からみた胸水検体の判断基準の比較検討

— 細胞数と分類, TP比, Lightの基準, pH —』

保科 ひづる

諏訪中央病院

この度は優秀論文賞に選出いただき、心よりお礼を申し上げます。この賞は、私個人のものではなく、今までご指導をいただいた諸先輩方、また共に検査や研究仲間がいたからこそ受賞できたものです。多くの方に支えられ好きな検査が楽しくできたことは、とても感謝できません。体腔液検査方法の標準化として、この胸水のデータを検査技師の皆さんが活用し、臨床に報告していただくこと、そして患者さんに貢献してこそ、この論文の完成と思っております。どうぞ皆さん胸水検査結果を読み解き、結果報告にコメントを付けて返せるようになることを希望します。ありがとうございました。



優秀演題賞

表彰の前年に日本医学検査学会にて発表された優れた演題に対する表彰。また、優秀演題賞のうち特に優秀な1題を「最優秀演題賞」として表彰する。

最優秀演題賞

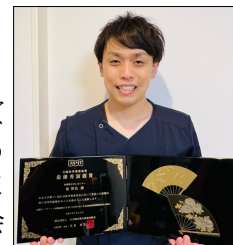
『パラフィン包埋組織切片を用いた

GENECUBEによる抗酸菌核酸増幅検査法の検討』

南 智也

兵庫県立がんセンター

この度は、日臨技学術奨励賞「最優秀演題賞」という名誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。選考委員の皆様を始め、学会



関係者の皆様、発表に協力してくださった皆様に深く御礼申し上げます。

肺病変の検索において、臨床的に悪性腫瘍と考えられ、最終的に感染症であった症例にしばしば遭遇することがあります。FFPE標本を用いた抗酸菌核酸増幅検査により結核菌群とMAC等の非定型結核抗酸菌群を正確に区別することは非常に重要であり、培養検査よりも迅速に抗酸菌の検出・同定が可能で、日常診療における患者の治療や院内の医療安全・感染対策にも大きく貢献できると考えています。

今回の受賞を励みに、今後も医学検査の発展に貢献できるよう精進してまいります。

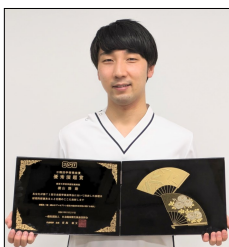
優秀演題賞

『胸・腹水中プレセプシン測定の臨床的有用性に関する検討』

横山 隣

東京大学医学部附属病院

この度は日臨技学術奨励賞・優秀演題賞の栄誉を賜り、大変光栄に存じます。選考委員の先生方並びに学会関係者の皆様へ厚く御礼を申し上げます。



血中の敗血症マーカーであるプレセプシンを胸・腹水へ応用し、特に腹水において、他項目と組み合わせることで培養検査よりも早く局所感染を評価できる可能性を見出した意義深い内容と考えております。結論へ辿り着くまでは表計算や統計解析ソフトとにらめっこの日々が続きましたが、この経験を通じてデータを多面的に捉えて解析する重要性を実感した次第です。

今回の受賞を励みに、医療の発展に引き続き尽力して参る所存です。

本研究遂行および本発表に際しましてご指導賜りました検査4部スタッフの皆様、先生方、並びに共同研究関係者の皆様にこの場をお借りしまして心より感謝申し上げます。

優秀演題賞

『関節液検体保存による結晶検出・同定検査への影響の検討』

片山 裕大

公立那賀病院

この度は、日臨技学術奨励賞「優秀演題賞」にご選出いただき、大変光栄に存じます。学会関係者の皆様ならびに選考委員の皆様には、この場をお借りして深く感謝申し上げます。



結晶鏡検を目的とした関節液の保存は困難であるとされることが多いですが、何日まで保存可能であるかの報告は極めて稀でした。そのため、関節液の保存性に関しては曖昧になっていることが多いと考え、参考となる基準ができればと思い検討を始めました。関節液中結晶鏡検は新規保険適応となり、今後より多くの

施設で実施されることが期待されます。本研究が各施設様での運用の参考にしていただけるものとなれば幸いです。

今回の受賞を励みに、日常の業務で疑問に思うことに着目し、臨床検査のさらなる発展に貢献できるような研究ができればと思います。

優秀演題賞

『コアグピアAPTT-Nを用いたAPTTクロスミキシングテスト判定法であるWaS-ALD50法の評価』

下村 大樹

公益財団法人
天理よろづ相談所病院



この度は、栄誉ある日臨技学術奨励賞優秀演題賞に選出していただき、大変光栄に存じます。宮島会長はじめ日臨技理事の皆様、そして選考委員の皆様は心より御礼申し上げます。

令和4年度の論文賞に続く演題賞をいただき、APTTクロスミキシングテスト判定法であるWaS-ALD50法が評価されたことを嬉しく思います。凝固線溶検査は標準化が難しい分野です。今回、論文賞で使用した試薬と異なる試薬を用いてWaS-ALD50法を検討したところ、一部に差異を認めました。試薬特性を理解して利用する必要がある反面、理解して運用すれば有用な方法であることを検証できました。

昨年度に引き続き、臨床検査の苦慮するポイントに着目し、臨床に寄与できる研究に取り組んでいく所存です。

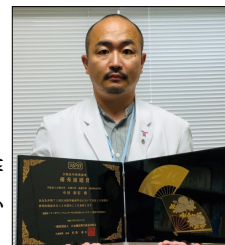
最後に、今回の受賞は職場ならびに関係者の方々のご支援助とご協力のおかげです。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

優秀演題賞

『ナノポアシーケンサーMinIONを用いたメタゲノム解析の性能評価』

中村 彰宏

学校法人天理大学
天理大学 医療学部 臨床検査学科



この度は、優秀演題賞を頂戴し、誠にありがとうございます。選考委員の方々をはじめ関係者の皆様は心よりお礼申し上げます。

本演題タイトルは「ナノポアシーケンサーMinIONを用いたメタゲノム解析の性能評価」です。本研究内容は近年国際的に注目されている新しい遺伝子解析技術ナノポアシーケンサーの性能を評価、またその新しい知見を見出した内容であり、今後腸内細菌叢解析をはじめ、様々な臨床検査にメタゲノム解析を応用していくうえで大変重要な知見であると考えています。

今後もさらに研鑽していく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

優秀演題賞

『Rh不適合妊娠により出生した患児の 血液型と移行抗体価の推移』

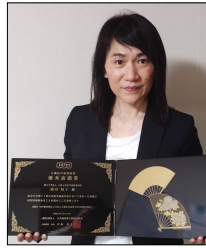
清川 知子

国立大学法人
大阪大学医学部附属病院

この度は日臨技学術奨励賞優秀演題賞をいただき大変光栄に存じます。

選考委員の先生方をはじめ、学会関係者の先生方に深く御礼申し上げます。

母児不適合は日常よく遭遇しますが、ほとんどの症例は軽症であるため出生後の児の経過観察はできません。本症例はRh不適合による重症症例であったため、移行抗体や感作赤血球がいつまで残存するか1年近く経過観察をすることができました。発表のもう一つの目的は、妊娠可能な女性にRhD不適合輸血は絶対に避けていただきたいという思いからです。母親の抗Dは輸血が原因です。救命優先ではありますが、本症例のような事例がなくなることを切に願います。



優秀演題賞

『骨髓塗抹標本によるSF3B1変異解析』

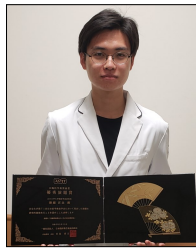
柳瀬 匠汰

山口大学大学院医学系研究科

この度は、栄誉ある日臨技学術奨励賞・優秀演題賞をいただき大変光栄に存じます。選考委員の先生方、及び学会関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

SF3B1変異の有無はMDS-RSの診断上、骨髓塗抹標本を作成し、鉄染色で環状鉄芽球を認め、その出現が5～15%だった際に極めて重要となります。残余骨髓塗抹標本を用いてSF3B1遺伝子検査を行うことで、再度の検体採取が不要となり、患者の負担軽減、検査の迅速性という点で貢献できたら幸いです。

最後に、ご指導いただいた先生、本研究にご協力いただいた山口大学医学部附属病院検査部の皆様に、この場を借りて深く感謝申し上げます。



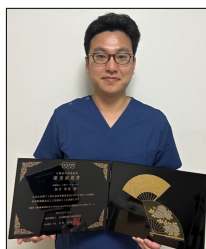
優秀演題賞

『臨床検査技師が介入するApple Watch®による 心電図測定のための教育アプローチ』

柿本 将秀

医療法人 三重ハートセンター

この度は、名誉ある栄誉ある日臨技学術奨励賞・優秀演題賞をいただき、大変光栄に存じます。私たちが心血を注いで取り組んできたWearable devices（ウェアラブルデバイス）による不整脈の早期発見の取り組みを認めていただいたものであり、私たちの努力が報われた瞬間です。



Wearable devicesの普及により早期発見が容易になる時代に到達しました。しかし、心電図は患者様にとって馴染みがなく、Wearable devicesの普及率ほど不整脈の検出率が上がっていないように感じます。そこで、臨床検査技師が患者さんに介入することで、より多くの方々に心電図の機能や使用方法を理解していただき、不整脈の早期発見に繋がると考えています。AIなどの普及により、現在の仕事の多くはなくなるかもしれません。そういった状況でも対応できるように新たな業務拡大(タスクシフト・シェア+α)が重要であると考えます。改めて、この度の受賞に関わってくださった方々に心から感謝申し上げます。

特別奨励賞

満35歳以下の正会員による学術成果を対象とし、表彰の前年に日本医学検査学会に発表された演題若しくは、会誌「医学検査」に掲載された論文で、独創的かつ将来性があると認められたものに対する表彰。

特別奨励賞

『水溶性パラフィンを用いた ブロックカバーの有用性の検討』

長谷川 祐二

北里大学病院

この度は「日臨技学術奨励賞 特別奨励賞」に選出していただき、大変光栄に存じます。選考委員の先生方をはじめ、学会関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

薄切後のパラフィンブロックを酸化や損傷から保護するため、ブロックの表面をパラフィンでカバーすることが行われます。しかし、再薄切時にはカバー部分のパラフィンを切削し面出しを行うため、組織浪費が必至であります。そこで、本演題は水溶性パラフィンを薄切後のパラフィンブロックのカバーに用いました。それにより、追加検索の再薄切時には、水で表面のカバーを溶解することで、粗削りを省力し、組織の浪費を抑えることができます。今後は新たな組織保護方法として、保管条件などの検討を重ね日常業務に展開していきたいと思っております。

最後にご多忙の中、本研究をご指導、ご協力してくださった皆様に心より感謝申し上げます。



特別奨励賞

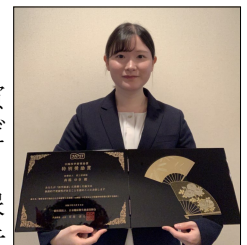
『健常者尿で検出された尿細管上皮細胞（丸細胞）の 性状および形態学的特徴に関する検討』

高楊 ゆき

医療法人 原三信病院

この度は、「日臨技学術奨励賞 特別奨励賞」に選出していただき、大変光栄に存じます。

本研究で対象とした丸細胞型尿細管上皮細胞は、末期腎不全患者



に多く認められ、本細胞を多く認める症例では透析導入へ移行する例が多いことが報告されています。しかし、健常者尿における出現の有無や形態学的特徴については明らかとなっておらず、評価基準が定まっていませんでした。本研究では、健常者尿におけるの丸細胞型尿細管上皮細胞の出現を確認し、新たな鑑別ポイントを提示しております。今後、尿沈渣検査において本研究が少しでもお役に立てたら幸いです。

最後になりますが、本論文の執筆にあたりご指導いただきました国際医療福祉大学大学院の先生方に心より感謝申し上げます。

特別奨励賞

『HISCL™ SARS-CoV-2抗原定量値に対する カットオフ値のバリデーション

— 当院における新型コロナウイルス抗原検査の現状と課題 —
金 貞姫

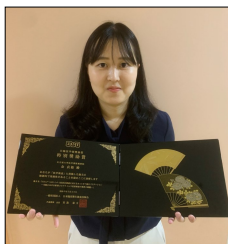
名古屋大学医学部附属病院

この度は、栄誉ある日臨技学術奨励賞特別奨励賞に選出していただき、大変光栄に存じます。

選考委員の皆様をはじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

本論文は、迅速かつ正確なSARS-CoV-2スクリーニング検査体制を構築していく中で、抗原検査陽性と判定されてもPCR検査で陰性となる症例が散見されたことをきっかけに、当院でのSARS-CoV-2抗原検査結果から定量値に対するカットオフ値のバリデーションを行い、より効果的なSARS-CoV-2抗原検査の運用について検証したものです。

今回の検討結果が多くの方の目に留まり、このよう



に評価していただいたこと、大変嬉しく存じます。

今後も、臨床検査技師の立場から臨床に応用できる研究を進め、検査業務と研究の両輪を通して臨床検査医学に貢献できるよう研鑽したいと思います。

最後に、本研究の遂行にあたりご指導ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

特別奨励賞

『e-learningシステムを用いた外来採血室の業務改善 — e-learning問題の実施状況および実施効果の分析を通して —』

中野 裕樹

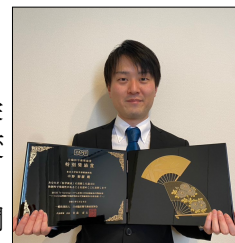
東京大学医学部附属病院

この度は、特別奨励賞という栄誉ある賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。

選考委員の皆様ならびに学会関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

当院検査部では外来採血室の業務改善のために、2016年よりe-learningを用いた教育システムを導入しております。本論文において、画像や動画を用いたe-learning教材が検査前プロセスの品質管理向上やインシデント防止に寄与する有用な教育ツールになりうることを報告させていただきました。日頃より継続してきた取り組みが、このような報告を通して、他分野ならびに他施設の皆様の業務改善における一助となりましたら幸いです。

最後に、論文の執筆にあたりお力添えいただきました当検査部スタッフの皆様にも心より感謝申し上げます。



臨地実習指導者講習会

ワークショップ (Webによるグループワーク) の受付について

2023年8月27日 (日) 九州支部 受付開始 (2023年6月27日～)

2023年9月10日 (日) 近畿支部 受付開始 (2023年7月10日～)

募集人数60名となっておりますのでお早めにお申し込みください。

「ワークショップ」の受講料は3,000円です。



<https://www.jamt.or.jp/studysession/onsite/>

※ワークショップの受講には事前に座学の受講が必要です。
受講に関する諸注意、お申込みは当会ホームページをご確認ください。

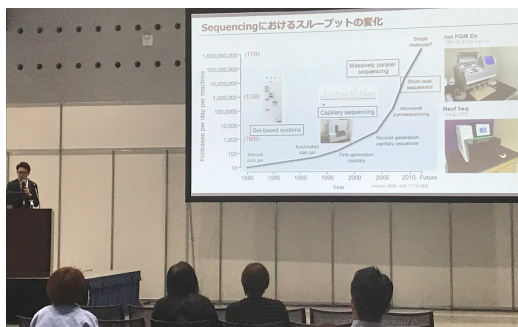
各認定制度で「行列のできるスキルアップ研修会」を開催

群馬県高崎市で開催した第72回日本医学検査学会に先立って令和5年5月19日に各認定制度のスキルアップ研修会が開催されました。全国学会に併設のスキルアップ研修会は毎年恒例となっていたのですが、近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響によりWebでの開催となった研修会もありました。本年はすべてのスキルアップ研修会を現地開催で行うことができました。

前回に引き続き受講者の皆様からの感想をご紹介します。

認定臨床染色体遺伝子検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会 Part XII

多様化するニーズに的確に応えるために



高橋 珠里

昨年に引き続き、染色体遺伝子分野のスキルアップを受講させていただきました。病理検査に携わっていると、日々遺伝子検査の知識の必要性が高まっていることを痛感します。遺伝子パネル検査はもちろん、臨床医へ追加検査の提案に至るまで、医者よりも私たち技師がより詳しく遺伝子検査について知るべきだと感じる中、その内容は膨大で、何からどう勉強したら良いか悩んでいました。今回のスキルアップセミナーでは、遺伝子検査の基礎から精度管理まで、初心者にもわかりやすく解説いただき、より深く勉強するための良いきっかけになったと思います。何よりも、染色体検査やNGSの検査結果を読み解くことに関しては、自分が最も知りたかったことですが、非常に難解だと思っていたので、今までなかなか手をつけられずにいました。この機会を大切に、臨床のニーズに応えるべく、これからも学習を進め、より遺伝子検査の知識を深めていけたらと思います。

福島 亜紀子

私は、臨床検査技師養成大学の教員で講義科目として「遺伝子・染色体検査学」を担当している。今回は、医療機関における遺伝子検査、染色体検査の実情を知るためにスキルアップ研修会に参加した。

染色体検査では核型記載の国際命名規約 (ISCN) が2020版となり、それに伴う変更点等も含め詳細な解説で知識を整理することができた。日臨技SARS-CoV-2核酸増幅サーベイ結果ではRT-PCR法だけでなくLAMP法の使用頻度も高いことを確認した。病理検体よりDNAを抽出する際には固定方法や保存期間が検査結果を左右すること、がん遺伝子パネル検査後の治療到達状況、

遺伝学的検査特異性などを学んだ。最後に、精度管理については外部精度管理の参加可能なプログラムや代替アプローチ案についての考え方を知った。

すでに講義内容にコンパニオン診断、がん遺伝子パネル検査、次世代シーケンサーの原理は含めているが、本研修により具体的な例も含めた教授をしたいと感じた。

認定心電検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会 Part XII

この心電図、どう読む？どう考える？

～参加型セッション 心電図徹底判読！



小野 三智男

群馬学会前日に4年ぶりに対面式で開催された認定心電検査研修会の表題は“この心電図、どう読む？どう考える？～参加型セッション 心電図徹底判読！”でした。

まず、今回の目玉は参加型であったこと、その手法は開始はじめに参加者に自身のスマホでQRコードを読ませ、設問の回答を送信することで正面スクリーンに、回答状況が表示されます。正直5時間40分のロング研修会で、集中力が心配でしたが、前半140分は基礎的な心電図症例を判読(12症例)～つまり、10分ごとに症例が変わりそれ毎にスマホで回答するのですが、回答時間が30秒と短い、でも長く考えても正解は無理なので、臨床現場で直面する事態対処と同じ緊張感が持てました。後半心電図判読セッションではいろいろある特徴波形・症候群・現象などを判読(12症例)～で、難問レベルの波形判読のポイントを明確にわかりやすく解説いただきました。

瞬く間に終了の時間を迎えて、最新の知見を含めたプログラムや、参加型セッションを通して心電図検査技量・判読力の向上、臨床ですぐに役立つ実践的なスキルを身につける内容でした。今回の1回がこれまでの数回に匹敵したお得感を実感できました。

認定認知症領域検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会 Part XII

認知症と糖尿病の深い関係と日常業務に役立つ 患者対応のポイントを知る



桑原 千津香

第72回日本医学検査学会（高崎）の前日に行われた認定認知症領域検査技師精度、行列のできるスキルアップ研修会に参加させていただきました。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたこともあり、久しぶりの現地での聴講でした。

今回の研修会テーマである『認知症と糖尿病の深い関係と日常業務に役立つ患者対応ポイント』は大変興味深い内容であり、他の受講者の方も真剣に聞き入っているのが印象的でした。グループワークでは「この資格をどう活用したら良いかわからない」「実際、認知症の検査に携わっている方の体験談を聞きたい」等の意見が多くでした。他施設の意見や悩みを聞き、情報交換することで有意義な研修となりました。今回の研修会に参加し自分の意識が高まり他施設の方々とも交流が深まる良い時間が作れました。

研修会に出席する度に新しい情報を得ることができ、企画担当の方に感謝しています。今後もこのような機会があれば積極的に参加したいと思います。

精松 裕乃

認知症患者とのコミュニケーションの取り方や、認知症の知識を得たく初めて研修会に参加いたしました。

職場で認知症サポーターの研修を受講した程度の知識しかなかったので、認知症認定看護師による講義で、「脳に障害があるということ」という認識から始まり、アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症の特徴などわかりやすく入ることができました。

そして、認知症患者とのコミュニケーションの取り方や、対応の技術などを学んだ後のグループワークでは、日常の検査時に経験するケースについて意見交換し、今後の生理検査等において参考にしたいと思う方法を得ることができました。他都道府県の方々とも交流し情報交換でき、とても有意義な研修となりました。

今回、研修を受講し、もっと認知症について学習したくなりました。認定認知症領域検査技師の資格取得を目指し、今後も研修会に参加していきたいです。

認定救急検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会 Part XII

症状からみた救急検査 ～検査の鉄則とpitfall～



吉田 香菜

私が認定救急検査技師制度を知ったのは大学3年の選択授業でした。そこでの出会いから私の救急検査技師人生が始まり、気が付けば検査技師6年目。受講した指定講習会も今回で6回目を迎えました。やはり現地開催では講師の先生の熱意が伝わるのはもちろん、救急検査技師を目指している技師が全国にこんなにもいることにとっても頼もしく思えました。

今回の指定講習会では全体を通して実際の検査結果や写真・動画を使った講演が多く、机上でもより臨床をイメージしながら聴講できたのがとても面白かったです。特に増野先生の講演では現場のスピード感がよく伝わり、なかなか現場を見る機会の少ない技師にとってはとても貴重な講演だったのではないのでしょうか。

私は今年ようやく受験資格を満たし、念願の受験の年です。学生時代から思い描いてきた夢に向け、ここをゴールではなく新たなスタートをきれるようこれからも日々精進していきたいと思っています。

片岡 奈緒美

令和5年5月19日に行われた認定救急検査技師制度行列のできるスキルアップ研修会に参加した。

コロナ禍で、私自身、学会や研修会等含め、現地での研修会参加は約3年振りとなった。そのため、期待・楽しみが半分と、休憩含め6時間という長丁場の研修への不安半分での参加だった。しかし、研修が始まってみると、救急医からの視点、腎尿路系、循環器系、ペットボトルを使ったBLS、呼吸器系、脳神経系、と6名の先生方の講演一つ一つに引き込まれ、気づけばあっという間に6時間が終わってしまった。多くの方々と久しぶりに再会することもでき、改めて集合研修の良さも再認識できた。今回学んだことは今後生かしていくとともに、またこのような研修会には積極的に参加していきたいと思った。

都道府県技師会 各地での取り組み(滋賀県編)

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、滋賀県臨床検査技師会の青年部の取り組みについてご紹介いたします。

「滋賀県青年部」の紹介

公益社団法人 滋賀県臨床検査技師会
青年部 虎谷 貴志

滋賀県臨床検査技師会（滋臨技）の青年部は2018年に誕生した比較的新しい部会で、20代から30代を中心とした若手会員で構成されています。青年部では活動のテーマとして「若手会員による研修会や交流会を企画しよう」「職場や部門を超えた横のつながりをつくろう」「活動を通じて他府県の技師とも交流を図ろう」「次世代を担う人材育成を推進して組織力の向上を図ろう」などを掲げており、この5年間で様々な研修会を企画・運営してきました。

今回は滋臨技青年部が誕生した経緯と、これまでに行ってきました研修会や交流会をご紹介させていただきます。

2018年に誕生しました青年部は、何を隠そう、滋臨技の理事と既に青年局として活動されていた長野県臨床検査技師会の方とのご縁がきっかけです。滋臨技青年部が誕生した年と翌年の2度にわたり、青年局宿泊研修交流会に参加させていただき、若手部会による企画・運営のノウハウを学びました。何より参加者が楽しく、積極的に参加しており、局員の皆様も自ら楽しんで参加している姿を肌で感じることができたことは貴重な経験だったと感じています。

このご縁をきっかけに滋賀県でも誕生した青年部では、過去5回にわたり様々な研修会や交流会を行ってきました。最初の年は滋賀県医学検査学会の終了後に若手技師による交流会を行い、日当直における不安や目指していること・資格取得などをテーマにグループ単位に分かれて意見交換を行いました。さらに若手技師のニーズも把握することができ、その中でも「各施設の検査室を実際に見てみたい」という意見が多く寄せられ、翌年には「病院施設見学」を企画し実現させることができました。これを実現できたのも参加していただいた方々や技師会の理事の皆様、青年部委員、そして協力いただいた見学施設の皆様のおかげと感じ、感謝しております。

以降の年では残念ながらコロナ禍に陥ってしまい、



長野県臨床検査技師会
青年局との出会い

病院施設見学の
様子



青年部の活動テーマである「横のつながりをつくろう」を目指した活動ができなくなりました。その中にはありましたが、滋臨技ではZoomによるオンライン研修会を導入し、初めての研修会を「青年部オンライン研修会」という形式で「ISO取得施設のオンライン見学」をテーマに行いました。それ以降は若手技師や青年部委員に意識調査を行い、求められるニーズを把握しながら、「タスクシフティングから考える臨床検査技師の未来」「資格取得に向けたスキルアップ研修会」をテーマに研修会を行ってきました。

今回はこれまでに行った交流会や研修会をご紹介させていただきましたが、コロナ禍に陥ったこともあり、青年部らしい活動ができなかったと感じています。このような状況下でもこれまで活動を続けてこられたのは、滋臨技の理事の皆様や青年部委員、研修会に参加していただいた方々のおかげです。コロナウイルスの猛威は過ぎ去り、以前のような対面式の研修会も復活してきましたので、今後の滋臨技青年部は本来の「職場や部門を超えた横のつながりをつくろう」をテーマにした交流会や研修会を実現していきたいと思っています。

（編集後記）日臨技定期総会が無事終了しました。季節は初夏、私の地元山形ではサクランゴ全盛期を迎えています。本号では「総会報告」「学術奨励賞受賞者コメント」「スキルアップ研修会報告」「都道府県技師会の取り組み（滋賀県）」をお届けしました。一足早く会員の皆様に暑中お見舞い申し上げます。久しぶりに制限のない夏休みを有意義に過ごしたいものです。どうか感染の波が来ませんように、次号もお楽しみに！

（植木）